



政務活動費って何？ ヤジってどうなの？

兵庫県の県会議員、野々村竜太郎氏の号泣会見で近頃マスコミを賑わした「政務活動費」とはどのようなものなのか、八丈町の議会ではどのように扱われているのか、疑問に思われた方も多いのではないのでしょうか。これは、「地方議会の議員が政策調査研究などの活動のために支給される費用」です。詳細は各自治体で決められ、条例にもとづいて執行されています。ちなみに都議会議員のそれは、月額60万円。主に議員活動に必要な事務所の諸費用、書籍、研修会、先進地視察などにあてられます。そのお金が領収書も報告もなく使われていたことが一部の議員で明らかになったばかりか、収支報告書に領収書なしを容認する都道府県が46もあったことは驚きです。議員の存在意義が問われています。

八丈町の場合 八丈町議会では政務活動費は支給されていません。政務活動費であれば、一人でも希望の先進地へ視察に行けるので、大島のようにしたらどうかと提案したことがありました。しかし、領収書の添付など詳細な報告が必要なのでなじまない、と多くの議員から一蹴されました。八丈では以前から年に1回、2泊3日の視察が認められていて、実費が支給されます。実際にはこれまで私の要望した場所で視察が実現しているので、今では現状に納得しています。月々の報酬については、多い少ない賛否があるとしても、出張や視察などについては適正だと私は考えています。

他島の状況 ただ、同じ東京都の離島の自治体の状況も知りたいと思い、各島に電話で問い合わせせて表にまとめてみました。

島の議会活動の状況

自治体	人口(人) (8/1 現在)	議員定数(人) ()内は女性	政務調査費	月額報酬 (単位万円)	視察の状況 *	視察の報告
大島町	8,133	14 (1)	8万円	20	全員、公費	会派ごと
利島村	306	6		11	全員、公費	事務局
新島村	2,908	10		17	全員、公費	幹事
神津村	1,935	10		17	全員、自費、積立	幹事
三宅村	2,726	8		18	数年なし	
御蔵島村	297	6		10	全員、公費	事務局
八丈町	7,945	14 (3)		20	全員、公費	代表者
青ヶ島村	168	6		10	数年なし	
小笠原村	2,836	8		17.6	年4回の旅費を公費で	編集委員

* 全員とは言っても本人の都合で不参加の場合もある。

前ページより続く

まず、大島は政務調査費を支給していますが、来年度から廃止する方向です。全員が同じ場所に視察に行くので、政務活動費にする意味がないからだそうです。利島では要望活動などと合わせて1泊2日の視察を行い、議員に意見を聞いて事務局が視察報告しているとのことでした。新島では、議会だより編集委員の5人が視察報告をしているそうです。神津島では、毎月1万円ずつ自費を積み立てて、全員で視察に行っているそうです。三宅島では視察は行わず、各人が島外の研修施設に行き議員研修などをしていたそうです。御蔵島では視察は実施されていません。青ヶ島でもここ数年視察は行われていません。小笠原では、視察費ではなく年に4回旅費を支給。常任委員会、特別委員会、陳情などの活動に使われ、報告は編集委員が担当しています。伊豆・小笠原諸島の議会では、いずれもほぼ適正な支出をしているという感触を持ちました。

八丈町議会、議場でのヤジは？ 議場での「ヤジ」についても、都議会で問題になりましたが、いつの間にかうやむやになってしまいました。八丈議会でも、ときにヤジが飛びます。「頑張れ」「時間ないぞ」「そうだ、そうだ」「同じこと聞くな」などが多いように思いました。ただ、議員の人格を否定するとか、性差別に関わるようなヤジはこれまでに聞いたことはありません。議場以外の場所では、やや問題となるような発言はないとは言えませんが、女性議員が3人いることで抑制は効いていると思います。今回の報道で、議員としてのあるべき姿を再認識させられました。

介護保険運営協議会



7月22日に、今年度2回目の協議会が開かれました。今回は、25年度の決算報告があり、厳しい会計の実態が明らかになりました。介護保険の利用者が増加し給付費がのびたことで生じた不足額を、一般会計から繰り入れ補てんしました。その額1億6千万円。前年より2千万円も増えています。介護給付費(支出)のうち伸びているのは居宅介護サービスで、訪問介護・通所介護・ショートステイの利用が増えたことがおもな理由です。今後ますます介護保険の利用者が増えるなか、保険料をなるべく抑えながらどのようにサービスを充実させていくのが課題です。

つぎに、町が3月に実施した「日常生活圏域ニーズ調査」(国が作製、任意)の結果がまとめられました。この調査は島内在住の65才以上の方を対象に、生活の実態と要望を把握するためのアンケートで、きめ細かな質問で工夫の跡が見られる内容となっています。各地区の老人クラブ(920人)に配布・依頼して行われましたが、回答があったのは664人で、高齢者人口2840人の25%にすぎません。ただ、このほかにも民生委員による高齢者実態調査が全員を対象として毎年実施されています。より多くの方々からきめ細かいニーズを把握すること、地域に特有のニーズを知ることが町の有効な施策につながるのだと思います。



2014年6月議会 一般質問



1. 人口を増やすために町ができる対策は何か

町の人口が急速に減っている。全国的にも同様の傾向が見られ、他人事ではない。3月議会では空き公共施設の利活用、定住促進、仕事と住宅の確保など、定住人口を増やす施策の必要性が議論された。町は空き家バンクの取り組みなどを示したものの、決定的な打開策は出されなかった。一方、人口を増やすための土台となる子育て環境は充実していて、保育園の待機児童ゼロ、中学生までの医療費は無料のほか、小児科医が定住していて、子育て支援や学童保育も充実しており、他の自治体に誇れる子育て環境だと思う。それをもっと島外に発信すべきだ。また、島には仕事がない、選択の幅がないと言われるが、継続的にまとまった情報を見られる場所が必要だ。住宅についても、空き家バンク構想を進めるべきと考える。

(1) 仕事については、町がハローワークの代わりに担うべきではないか。

町 関係する各課を横断する形でプロジェクトチームをつくる考えであり、その中で民間と連携した仕組みを検討していく。

(2) 住宅について、空き家バンク構想を実現させるための町の具体策は…。

町 今年度に島内の空き家の実態調査と所有者へのアンケートを実施し、提供可能な空き家の状況を把握したい。寄付を受けた住宅の改修も検討する。

(3) 定住促進係をおくべきと思うが町の考えは…。

町 「担い手育成」「婚活事業」「空き家対策」をテーマにプロジェクトチームをつくる。移住・定住と雇用の促進を両輪で進めていく。係を置くかは未定だが、今年度は準備段階で企画情報係が兼務で行う。



再質問

(1) 八丈高校の卒業生や島出身者が「島にとどまる」「島に戻る」働きかけや「島外から呼ぶ」努力を行なうべきだ。

町 中学生には職場体験などで町の産業を発信している。専門学校への働きかけは総務課と相談して検討課題としたい。

(2) 空き家の整備については、取り組んでいる自治体では「空き家再生等整備事業」で改修しているが、これについてはどう考えるか。

町 この事業が町に使えるのか研究したい。条例をつくる必要がありそうだ。

(3) 兼務ではなく「ワンストップ窓口」に専門職員をおくべきだ。また、婚活事業は回数を増やすなどで、事業の拡大を考えては。

町 今年度は準備段階なので兼務で行う。事業の拡大は商工会と相談したい。

6月議会の一般質疑から

●**マウイ島との交流50周年事業** 7月にマウイ島から54人の来島が予定されているが、交通費宿泊費すべて自前だと聞いている。太鼓の交流など今後町にとってもメリットはあるので、積極的に支援すべきと考える。

町—————島内の観光案内や歓迎交流会は町が負担する。

●**介護保険改正による影響は** 来年度から要支援1と2の対象者への保険が国から町に移行することになる。町は地域支援事業で引き継ぐことになるが、財源はどうなるのか、利用者の負担はどうなるのか。

町—————通所サービスとホームヘルプは従来通り利用できる。ショートステイについては、独自の判定によってサービスを受けることになる、料金設定はまだわからない。

●**特別給付金の申請** 4月から消費税のアップによる負担に配慮するという趣旨で臨時福祉給付金(ひとり1万円、5千円加算される方もいる)が支給されるが、申請しなければ給付されないので周知を徹底してほしい。

町—————町の税務課から対象となる世帯に申請書を送付した。10月14日まで受け付けている。

底土に新しい船客待合所が完成

7月10日午後、神湊港底土船客待合所完成記念式典が開かれました。広い待合室と一部吹き抜けの開放的な空間(写真上)で、気持ちよく船旅のスタートが切れそうです。屋上に上ると港の景色が一望できます(写真下)。3階にはイベントスペースがあり、すでにマウイから来島した太鼓の仲間との交流会にも使われました。雨が多い八丈では今後おおいに活用されるでしょう。



6月末には新船「橘丸」が就航しました。トイレは温水洗浄便座、手洗いにはお湯が出るとびっくりする乗客もいました。動物ペット専用室もあり、評判は上々で、文字通り順調な船出と言えそうです。

ただ、八丈—東京の運賃が11,580円になり、船旅は安いというイメージが損なわれかねません。観光客にとってはマイナスですが、その分船内の快適さやおもてなしで補ってほしいと思います。



編集後記

町の重要な観光スポットである歴史民俗資料館。ていねいな館内ガイドで島の歴史や文化の説明を受けられるだけでなく、雨の日など外で活動できない観光客にとっては、しばらく時間を過ごせる施設です。

しかし驚くことにトイレが男女一緒でした。

3月議会でそれを指摘したところ、すぐに改修され夏休み前に使いやすくてきれいなトイレに生まれ変わりました。